

第1回高知県中小企業・小規模企業振興審議会における主なご意見への対応について

資料 1 - 1

	項目	概要	対応策
①	指針	<p>○産振計画がある中で条例の意義は何か、産振計画とのさび分けをすべきと考える。産振計画は地産外商がベースで、条例は厳しい環境にある企業が生き残るにはどうしていったらよいかを主眼にしてはどうか。</p> <p>○生き残るためには何が大事かと言うと、一つ目は危機対応（コロナや南海トラフ）、二つ目は環境変化（デジタル化や少子高齢化）にいかに対応していくかを全面にだしてはどうか。</p>	<p>・指針（案）に反映 ⇒「3. 高知県中小企業・小規模企業振興指針について（1）考え方」に反映</p>
②	デジタル化	<p>○多くの業種で人材の課題に集中するのではないかと思う。現在、IT業界の人材はとりあいになっていて、なかなか高知県にきてくれない課題がある。デジタル化を進める上では、そのことについても考えていかないといけない。</p> <p>○「<u>施策の基本的方向</u>」で幅広い項目があげられているが、それぞれが単独に施策を実施して効果があるのが疑問。中小企業の課題や特徴にあわせた工夫をしなければ難しいと感じる。特に規模が小さいことからやろうとしても出来なかったり、効果があがらなかったことが多かったと感じる。</p> <p>○<u>効果をあげるためには企業がまとまっていく必要性があるのでは。その方法としてデジタル化を積極的に取り入れることが大事。</u></p> <p>○ソフト導入時に費用がかかることや、一企業が導入しても効果が上がらないといった課題がある。例えば中小企業共通のデジタルインフラを作って共有することにすれば、コストの課題もある程度クリアできるのではないか。</p> <p>○各企業それぞれに仕入れ先、納品先がある。それをつないでいくとサプライチェーンが構成される。そのサプライチェーンの流れを一つの集団としてグループ化していくと、やりとりが密な一つのグループとなるので集団化しやすい。サプライチェーンの集団化をデジタルを使って進めていくのがいいのではないか。</p> <p>○各企業の取組をやっても点でしかなく、効果が限られてくるが、それが線となり面となれば効果が2倍3倍につながっていくのではないか。15項目それぞれに横断するような形で、デジタル化をうまく活用する視点をに入れていただきたい。</p> <p>○高齢化した地域の医師・コメディカルのデジタル化は難しい。</p>	<p>・「デジタル化」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。 ⇒指針の「（1）考え方」や、施策の基本的方向「②生産性の向上」「⑧地産外商の強化」「⑩事業活動を担う人材の育成及び確保」「⑪働き方改革を進める雇用環境の整備の促進」に反映</p>
③	異業種連携	<p>○情報発信が得意な会社と規模の小さい会社のセットや、新たな取組が成功した農業者と飲食業など結びつきやすい業種のグループを作って活発化させる戦略が必要ではないか。</p> <p>○何が不足していて、何と組み合わせればよいか、新しい戦略をたてないといけない。従来の農林漁業や製造業という産業分類とは違う視点が必要と考える。</p>	<p>・「異業種連携」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。 ⇒施策の基本的方向「③新たな技術、製品及びサービスの開発の促進」「⑧地産外商の強化」「⑩事業活動を担う人材の育成及び確保」に反映</p>
④	販路開拓	<p>○製紙業者はこの30年で3割程度減少している。これは資本力が必要な業界のため新規創業がなかったことと、事業承継ができなかったことが原因。国際的に展開しているところはほとんどなく、国内で浅く広く商売でなりたっているのが実態。新しい分野の開拓も必要だが、まずは資本と人材が重要。不織布を含めると、様々な動きが出ているが、販路を広げないといけない。そのためには<u>大手企業との連携</u>がポイント。</p>	<p>・「販路開拓」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。 ⇒施策の基本的方向「⑧地産外商の強化」に反映</p>
⑤	地産外商	<p>○施策の基本方向に地産外商とあるが、中小企業が県外に展開するためには量産に課題がある。特に食品業界では原料となる農林漁業の利用拡大といった意味でも<u>県内の取引拡大</u>といった視点があっていいのでは。</p>	<p>・「地産外商」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。 ⇒施策の基本的方向「⑬地域の多様な資源及び地場産業を活かした事業活動の促進」に反映</p>

第1回高知県中小企業・小規模企業振興審議会における主なご意見への対応について

資料 1 - 1

	項目	概要	対応策
⑥	付加価値向上	<p>○付加価値をあげる施策の方向性として、脱炭素的なビジネスをしている企業はよりサプライチェーンや取引先を選ばれる可能性が高くなる。もちろん、製品やサービスの質向上とDXをやっていくことで県内企業のブランド力を高めることは重要。</p> <p>○DXを小さな企業レベルで導入する場合、自社でもっているデータは何か、データを集積させてどう使うというところから考えていく必要がある。企業を中心価値はそのまま残し、周辺の物流や対面サービス・営業等の自社のもっているデータをどう活かせるかというところでITツールを使うという考え方を進めて行く必要がある。中小企業に「こうした改革が必要です」「世の中が変わります」と伝える仕掛け作りが必要。その際は、国内事例を用いると横並びになるので先進的な海外の事例を参考にすることがよい。</p>	<p>・「付加価値向上」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。</p> <p>⇒施策の基本的方向「②生産性の向上」「⑭脱炭素化をはじめとするSDGs等の新しい課題への対応」に反映</p>
⑦	人材確保	<p>○人の課題が共通であると感じた。今後、伸びしろを考えると、女性・外国人・高齢者・障害者というところに視点をあてていただきたい。</p> <p>○ウッドショックで木材価格が高騰しているが、川上側が万々歳かといったらそうではない。長期の景気低迷で事業体の足腰が弱まっており、チャンスを活かす瞬発力がなくなっているのが実態。その原因に人材不足がある。就業条件が厳しく、一人前になるには数年かかる業種である。そういったことを理解した上で現場で働く、特に若手の就労条件をよくしていく施策を考えていただきたい。</p> <p>○コメディカルの人材確保が難しい。</p>	<p>・「人材確保」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。</p> <p>⇒施策の基本的方向「⑩事業活動を担う人材の育成及び確保」「⑪働き方改革を進める雇用環境の整備の促進」に反映</p>
⑧	商店街振興	<p>○商店街は厳しい環境が続いている。商いだけでなく、そのエリアの顔として各店が頑張っているのだが、売り上げがないと各店は続かない。祭りをはじめ三密が得意である商店街にとっては、すぐEC取引やネット販売は難しい状況。私は反対に技を磨いて、今まで以上に人と人との交流がある三密をやるようにと、個店・商店街でよいところはそこだと、「思い出作り」を県民にしてもらおうじゃないかと考えている。それとあわせて異業種に商店街というエリアに入ってきてもらいたい。</p>	<p>・「商店街振興」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。</p> <p>⇒施策の基本的方向「⑫商店街等の振興を通じた地域の活性化の促進」に反映</p>
⑨	人材育成	<p>○今後、中山間では診療所の立地が難しくなってくる。人口減少が進んでくると個々の診療所の役割が大きくなっていく。個々の診療所はほとんど赤字経営であり、経営しているのが役場から出向してきた役人が多い。マネジメント能力の養成をお願いする。</p>	<p>・「人材育成」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。</p> <p>⇒施策の基本的方向「⑩事業活動を担う人材の育成及び確保」に反映</p>
⑩	グリーン化策	<p>○温暖化対策をはじめ、グリーン化が政府の柱となって施策が展開される空気を感じている。森林県である本県はCO2の固定化では、役に立てるという考えの中で、いざというときに山の方では厳しい環境で増産ができない。我々実業界にとっては、CO2の固定化が工業的に出来るかといういい技術がまだない。高知大学農学部という良い機関があるので、有効な方針と林業振興を、タイムリーな施策で両方解決できるよう目指していただきたい。</p>	<p>・「グリーン化」は、指針（案）の「第2章. 施策の基本的方向」に位置付けるとともに、施策を検討する際に視点として取り入れていく。</p> <p>⇒指針の「考え方」や、施策の基本的方向「②生産性の向上」「③新たな技術、製品及びサービスの開発の促進」「⑭脱炭素化をはじめとするSDGs等の新しい課題への対応」に反映</p>
⑪	会議運営	<p>○審議会は、取組の報告ではなく、この業界ではこういう問題点があり、これを解決しなければ次にいきませんといったところまで報告してもらい、それを委員で協議し解決策を探すというスタイルではないか。</p>	<p>本審議会では取組の方向性や各業界の大きな課題等について議論していくこととし、個別事業については、各種計画（産振計画等）でPDCAを回していきます。</p>